敦賀半島 ふるさと紀行

晴明の朝市

人と人が対面で交流し、町に活気を。

「市街地に活気を！」という地元有志の声でスタート

安倍晴明ゆかりの晴明神社近くで、月に1回開かれている「晴明の朝市」。開催日の第3日曜日には、多くの人で賑わう敦賀ではおなじみの朝市です。

「晴明の朝市の歴史は古く、大正4年に地元の名士・清水友吉氏が私財で青果市場を建設したのが始まりです」。そう話すのは、「晴明の朝市」実行委員会の会長を務める増田一司さんです。

増田さんによると、朝市が行われている敦賀博物館通りは長らく敦賀のメインストリートで、旧大和田銀行の創始者・大和田荘七氏をはじめ経済人が集う商業の中心地だったと言います。しかし戦後、市の再整備が進むにつれて商業地は郊外へ移行。商店も代替わりを機に閉店するなどして数が減っていきました。そんな中、再び中心市街地の活性化を、と動いたのが博物館通り商店街の有志たちでした。朝市を復活し、敦賀の中心街に昔の賑わいを取り戻そうと、平成12年12月より、「晴明の朝市」をスタートしました。

生産者と対面し、会話を交わしながら買い物を楽しめるのが魅力

「晴明の朝市」実行委員会会長
増田 一司さん

▲晴明神社周辺の旧地名は晴明町。安倍晴明ゆかりの晴明神社に由来します

「勢いで始めたところもあり、最初はテントもなく店構えも手作りでした。これで本当にお客さんが来てくれるのか不安でしたが、行政がPRに協力してくれたこともあり、予想を上回るお客さんが来てくれました。前に進めないほどの人だかりで、出品者の品物もあっという間に完売。我々の方が驚いたほどです」。

その評判は口コミでも知られるように。地元の商店はもちろん、他市町からの出店も増え、農産物や海産物、観葉植物、屋台まで所狭しと商品が並ぶ人気の朝市として定着しました。

存続の危機を経て再開 20周年をめざす

平成25年6月、博物館通りの電線地中化工事のため、晴明の朝市は一時休止となりました。その間に朝市の立ち上げから旗ふり役となっていた前実行委員会会長が亡くなり、一時は朝市廃止論も出たと言います。

前会長は朝市の顔とも言える人で、彼なくして朝市は継続できないという思いが実行委員の間にありました。しかし、せっかく地域に定着した朝市をなんとか続けてほしいという声が市民や行政からあり、実行委員会で話し合い、継続することを決めました。

朝市は平成26年1月より再開され、石畳となって整備された博物館通りに再び活気を呼んでいます。

「朝市の魅力は売り手の顔が見えること。インターネットで買い物ができる時代にあえて昔の対面販売のスタイルを再現したことが、昔の人には懐かしく、若い人には新鮮だったんじゃないでしょうか」と増田会長。

晴明の朝市開催日には、みなとつるが山車会館と紙わらべ資料館が無料開館されるなど、周辺施設とも連携し、観光促進にも一役買っています。

そんな晴明の朝市は、昨年12月で17年目を迎えました。

出店者の高齢化など課題はありますが、「まずは20周年をめざして頑張りたい」という地元の熱い思いが、伝統の朝市を今日も支えています。

「晴明の朝市」実行委員会の女性部がお客さんたちをおもてなしします

●晴明の朝市
場所／敦賀市博物館通り
日時／毎月第3日曜日 8:00～12:00

発行所■日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部＝〒914-8585 敦賀市木崎65号20番
☎0770（23）3021 ホームページ http://www.jaea.go.jp（平成29年1月発行）